



令和6年度 大野城市立大城小学校 校長便り

第20号(最終号)

(令和7年3月24日 月曜日)

【文責】校長 弘松 英樹

大城の風

～校長室の窓から～



本校ホーム
ページは
こちらから

「有難い」出会いに感謝です

今日は、今年度最後の修了式の日でした。子どもたちには、4月から1つ学年が上がるので、今年以上に素晴らしい大城小をみんなの手で創ってほしいということを話しました。素直で、明るく、優しく元気な大城っ子です。必ずやできると期待しています。

保護者の皆様、地域の皆様には、この1年間の御協力、本当にありがとうございました。こんなに子どもたちが素直で、まっすぐなのは、きっとご家庭や地域の方々のおかげだといつも感じておりました。皆様に支えられての大城小学校でした。この場を借りて、感謝申し上げます。



【素敵な子どもたち、先生方との出会いがありました。(加工してありますが、みんな笑顔です!)]

思い返せば、数年前は新型コロナウイルスが流行し、学校でも多くの活動が制限されました。それを体験している6年生の修了式でこんなことを話しました。

あの時は、みんな怖い思い、不安な気持ちになって、したいことが思いっきりできない悔しさや寂しさを感じたでしょう。あの時に、私たちが学んだことは何でしょうか。それは、「当たり前」と思っていたことは、当たり前ではない。」ということではないかと思います。これは、修学旅行で長崎に行って学んだこととも重なると思います。

この1年、楽しい思い出がたくさんできたと思います。でも、それも決して当たり前ではない。みんなで勉強ができること、友達と元気に遊べること、先生と話ができること、どれも健康や平和や豊かさがあり、不安や恐怖がない状態だからできることに感謝の気持ちをわすれないでほしいと思っています。

私は、そうした身の回りにある当たり前のことの尊さに気づき、心が満たされることを「幸せ」と呼ぶのだと思っています。だから、みんなには自分が今、与えられているものから幸せを見つけられる人になってほしい。そして、人の日常にある幸せを奪わないでください。そうではなくて、人に幸せを与えられる人になってほしいと思っています。

「ありがとう」は「有難い」、つまり「そう有ることが難しい」という意味から来ています。

私たちの目に映るすべての景色、縁あって出会えたこと、そして今生きているこの命さえも、「有難い」ものであり、「あって当たり前ではない」ということを噛みしめています。

1年間本当にありがとうございました。ここでたくさんの方に出会えたこと、この大城小に来れたことに感謝しています。これからも、大城っ子たちをよろしく願いいたします。